

人生は出逢いである

—スバラシイ出逢いに感謝—

高井法博会計事務所 所長

TACTグループ関連12社 代表

税 理 士 高 井 法 博



今回、機関紙「二期一会」の五十号を記念して、「感謝」というテーマで特別号を発行することとなり、多くの方々に御寄稿をお願いしました。本当にお忙しい中、素晴らしい原稿をお寄せいただき心から厚く御礼申し上げます。その一つ一つが誠に味のあるもので、その方その方の生き様に応じて、重くまた深く心に響くものを感じました。色々な方々とうこうして知りあえたことに、心より感謝致します。

一、感謝・報恩の重要性

『人生は努力と忍耐。そして、報恩によって開花する。』

この文言は、私の長女が小学校を卒業する時に、当時の校長岩田正彦先生が全卒業生に贈られた色紙に書かれたものである。人生において成功するには、血の滲むような人一倍の努力、そして、悔しいこと苦しく辛いことに對して我慢し耐えることが重要である。しかし、これは当然のことで、最後の報恩・感謝の心と実行がなければいけないと教えていただいた。全くその通りだと思う。

私自身、両親を初め本当に多くの方々とお出逢い、色々な事象にぶつかってきた。いずれもが、今ある自分のために絶妙なタイミングで起きてくるものであると、先人より教えていただいた。今までの人との出逢い、色々な事象との出逢いから感謝し合掌したい。

二、人生の大恩人 後藤静一氏

所長室に三枚の写真を掲げている。その内の一枚は、私を県立岐阜商業に進学

させて下さった後藤静一氏である。その生産するヒヨコは、「ゴトウのヒヨコ」のブランド名で、国内ではトップメーカーで海外にも輸出されている。後藤氏は岐阜の根尾村のご出身で、事情があり明治時代に私生児としてご出生された。学校もろくに通えず、大阪への丁稚奉行に出て肺病を患い、大変な逆境困難にあいながら素晴らしい企業を作り、「生長の家」の教えをバックボーンにいくつかの慈善事業をしてこられた方である。

私は昭和二十一年、岐阜で山村のお寺の次男坊として生まれたが、終戦に伴う農地解放の煽りで農地のほとんどを没収され、父も無理がたたり胸を患って倒れ、母も病弱で一家の暮らしぶりはみるみるうちに貧しくなり、一家は生活保護を受けることとなった。そして、私は新聞配達をしながら小・中学校へ通った。

「高校くらいは行かせてやるから。」と言われていた矢先、療養中の父が脳溢血で倒れた。高校進学を断念せざるをえない状況の中、学校の先生のご尽力で後藤氏とお出逢い、後藤氏の創設された奨学制度を受け、更に後藤静一氏の寮に入れていただき生活・教材などの一切の面倒を見ていただいた。

高校卒業後、後藤静一氏に入社し、十二年間本社及び関連会社で、経理・総務・企画・社長室の責任者として仕事をさせていただきました。資格取得後に独立をさせていただいた。



三、人生の同志 武藤貞明君

もう一枚は、私の創業以前からの三十年来の友人であり、人生の同志でもあり、事務所のNo.2であった武藤貞明君である。私とは、まさに心を一つにして朝から晩まで一年三六五日、粉骨砕身尽くしてくれた男である。

平成十年三月十五日、確定申告の全てを終えた後、交通事故で急逝してしまい、私にとって一番残念な思い出である。

このお二人の遺影に毎朝挨拶をし、般若心経を唱えるのが私の毎日の日課である。

四、その他の多くの人々に感謝

三人目に、職業会計人としての生き様を教えていただいたTKC全国会名誉会長 飯塚毅先生である。何よりも事務所を支えて下さっている長屋会長を初めとする多くのお客様、日夜必死に頑張ってくれている職員の方々、また、仕事と家庭を支えてくれた女房、仕事で休日もほとんど遊んでやることもできない間に成人してしまった子供達にも、改めて感謝したい。